

(5) 全体会議

□ 司 会：釜山広域市政策開発室 金濠均博士

□ 座 長：安相英釜山市長

～～ 司 会 ～～～

全体会議を始めます。

私は、釜山広域市の政策開発室長、金濠均と申します。

午前には二つの分科会の主題である「都市間交流と貿易の振興」と「観光産業の育成案」について三つの分科会で発表及び討議が行われました。全体会議では、その結果を基に「新しい千年のアジア・太平洋経済発展」について討議したいと思います。

アジア・太平洋都市サミットの慣例に従いまして、釜山広域市の安相英市長を座長として指名させていただきます。

□ 座 長

釜山広域市長の安相英でございます。会議がスムーズに進行されるよう協力をお願いします。午前中は二つのテーマについて各分科会とも熱心な討議をいただきまして大変お疲れさまでした。午前の分科会の座長の方々のご報告に先立ち、昨年11月、福岡で開催された第3回実務者会議の結果について、福岡市の川口一隆総務企画局長から報告して頂きます。

□ 川口一隆 福岡総務企画局長

皆さんこんにちは。アジア・太平洋都市サミット事務局を代表致しまして参りました福岡市の川口でございます。昨年、福岡市で開催されました、第3回実務者会議についてご報告させていただきます。

実務者会議は、行政の第一線で活躍している実務職員が、情報交換や意見交換、更に実技研修を通じて相互に学びあうもので、アジア・太平洋都市サミットを補完するものとして都市サミットの開催の翌年に行っております。第3回実務者会議は、1998年に開催された第3回アジア・太平洋都市サミットの分科会テーマの中から、「安全な水道水の供給」に焦点を絞って1999年11月30日から12月2日までの三日間、10ヶ国地域の18都市から37名の参加者を得て開催され、会議、実技研修、行政視察を実施致しました。

まず、11月30日の会議は、夕方まで8時間に渡って行われました。初めに、九州大学大学院のウツミ・ヒデオ教授に基調講演を行っていただき、その後、シンガポール、上海市、北九州市、

ホーチミン市の4都市に各々の事例を発表していただきました。その事例発表を基に、参加者全員による意見交換や情報交換を行い、参加都市間の相互理解を深める事が出来ました。

実務者の上水道分野における真剣で積極的な姿勢が、この会議での活発な質疑応答に現れていました。

また、福岡市の市民ボランティア団体である、「博多夢松原の会」のカワグチ・ミチコ代表から「水資源保全のための市民の取組み」について、そして、国連人間居住センター、いわゆるハビタットのグラハム・フィリップ・アラバスター人間居住オフィサーから「21世紀における都市の水管理」について各々報告をしていただきました。更に、国連経済社会局のヨネカワ・ヨシノブ計画調整官からも適格な意見をいただき、意義深い会議となりました。

最後に、国際協力事業団のヤマモト・ケイコ国際協力専門委員に会議を総括していただきました。

会議の詳細につきましては、お手元の報告書に記載されておりますので、後程ご覧になっていただきたいと思えます。

次に、12月1日に行われました実技研修についてご報告します。

福岡市の水質試験所において水道概要や水質試験所に関する説明の後、実技研修として物質の機器分析や緊急時の現場における水質試験方法等についての実習を行いました。実際に水質関係の機器を使うことに因りまして、より具体的な情報交換がなされ、内容的にも大変充実したものとなりました。ここでの様々な情報が問題を抱えている都市に行き渡り、技術が広がって行くことを願っています。次に、福岡市の水管理センターにおいて「電話回線を使用したコンピューター制御の排水コントロールシステム」について説明を受けて頂きました。このシステムは、日本でも珍しいもので、漏水防止にも役立ち、市内全域の効率的な排水を可能にしています。

12月2日の行政視察についてでございますが、福岡市の東の方に当たりますダムと浄水場を視察していただきました。

また、映画館、ホテル、レストラン等をあわせ持つ複合商業施設、キャナルシティ博多での水の再利用設備も参考としてご覧頂きました。

実務者会議を通じまして、参加者は安全な水道水の供給に関する、各都市のシステムや抱える問題は様々ではございますが、課題解決に向けた取組みには、共通点も多く、今後、人材の育成、そして、都市間のネットワークの充実が重要であること、また、会議で得た成果につきましては、持ち帰って積極的に都市行政に繁栄していくという共通認識に至ったことも合わせて報告させていただきます。

最後になりましたが、事例発表にご協力いただきました4都市に対しまして改めてお礼を申し

上げます。そして、実務者会議に職員を派遣して下さった各都市の代表者の皆様方にご理解とご協力を賜りましたことを深く感謝申し上げます。アジア・太平洋都市サミット第3回の実務者会議について、事務局の方からご報告させて頂きました。ありがとうございます。

□ 座長

福岡総務企画局長、ありがとうございました。

ヒューマン・ハビタット問題、水質改善等に関する実務的な交流内容について報告して頂きました。ありがとうございます。

それでは、午前中の分科会の内容について報告を行っていただきます。

第1分科会では、「都市間の交流と貿易の振興」について、オークランド市、ブリスベン市、ホーチミン市、イポー市、ジャカルタ市、釜山市、佐賀市で討議しました。オークランド市長に報告をお願いします。

□ クリスティン・フレチャー オークランド市長

第1分科の主題は、「都市間の交流と貿易の振興」で、各都市の経験と意見が交換されました。参加者は、経済交流の基盤構築と友好関係の構築が重要という認識を共にし、共通の問題と目標、ビジョンを持っていることを土台に、クリエイティブかつ革新的な解決策の必要性に共感しました。全ての発表者は、公平な社会を作るため、自由貿易が大切で、世界化の相互依存的な関係の構築が先行されるべきという共通認識を持っていました。都市が経済成長の主体でありますので、直接都市間で交流が行われる時、国家主導に伴う官僚主義の問題が解決されるという意見もありました。各市の事例発表を通じては、サイバー・インフラの構築が必要という事に共通認識がありました。以上でございます。

第1分科会の座長を務めさせていただき、大変光栄に存じます。皆様大変素晴らしい発表をして下さり、積極的に参加して下さいました。第1分科会のテーマは「都市間の交流と貿易の振興」で、各都市の経験や意見を発表していただき、活発な意見交換が行われました。

都市の抱えている様々な問題について、創意的かつ画期的な解決策を模索すべきだという事を認識しました。また、自由貿易が提供する機会を積極的にキャッチし公正な貿易を通じて公正な社会を作って行かなければなりません。自由貿易を通じた繁栄なくしては、社会問題、環境問題を解決出来ません。

参加者は、経済交流の基盤と、友好関係の構築が重要だという事実を共に認識し、共通の課題、目標、ビジョンを持っているという事を基に創意的かつ画期的な解決の必要性を感じまし

た。

全ての発表者は、公平な社会を築くため、自由貿易が重要で、グローバル化の相互依存的関係の構築が先立たなければならないという共通の認識を持っています。経済発展と様々な包括的な制度に対する論議もございました。

都市が経済成長の主体であり、都市間の交流によって国家主導による官僚主義の問題、高費用の問題が清算されるという意見もございました。

また、快適な住みやすい街作りの方法等についての発表もございました。生活のレベルは、無視することの出来ない重要な要素です。

我々には、都市の指導者としての役割と責任があります。そういう意味で、佐賀市が発表して下さいましたバルーン・フェスティバルのように多くの都市に参加していただく行事の開催も重要です。

インフラを改善することにより世界の人々を引き付けることも出来ます。環境を快適に維持させることも重要です。マーケティングを通じて都市を広報することも大切です。

イポー市は、サイバー市役所の話をして下さいました。市民や潜在的な投資家が、世界のどこにいても24時間アクセス可能なシステムです。このような透明性のあるモデルは、相互連結性を創出します。また、都市問題に対する重要性も指摘されました。都市は、取引の場であるだけでなく、文化と文明が花咲く場であるからです。

参加都市は、創意的かつ革新的なアイデアを共有するのが重要だということで意見が一致しました。都市を結ぶ方法として、電子メールとホームページが可能だという論議もございました。

結果的に都市の指導者が世界経済の中で市民のためにこのような機会を最大限活用すれば、都市の役割は一層強化されると思われれます。各都市は、協力して一緒に頑張りましょう。

以上です。

○ 座長

オークランド市長、総合的な報告ありがとうございます。

2-A分科会では「観光産業の育成案」について、バンコック市、広州市、鹿児島市、熊本市、マニラ市、宮崎市、長崎市、釜山市、上海市が討議して下さいました。鹿児島市の赤崎義則市長に報告をお願いします。

○ 赤崎義則 鹿児島市長

第2-A分科会では、ご紹介がありました9都市が参加し、都市の環境と調和した観光産業の育成方策について事例発表を行い、そして討議を行いました。参加された各都市は、各々、歴

史や人口、規模等が異なりますが、共通して訴えられました点は、観光産業は経済のみならず社会のあらゆる分野に大きな波及効果をもたらす総合産業であり、21世紀の機関産業として一層の発展が期待されることから、観光の振興を都市作りの最も重要な政策課題の一つとして位置付け、積極的に事業に取り組んでいくということでした。

まず、バンコク市からは観光振興を図る上から、利便性の高い都市交通体系の整備が必要不可欠であることや、コンベンションの誘致を強力に推進していること、様々なニーズに対応して、スポーツや歴史観光、友好ツーリズム等の新しい観光商品の開発を進めていること等を発表されました。また、観光客の権利保障や安全確保の重要性についても述べておられました。

広州市からは、観光産業の経済構造強化のため、業種の枠を越えた連合を進め、多種多様の資源の魅力を互いに活かした観光商品の新しい体系作りを目指すと共に、隣接の香港、マカオとの連携・合作により、観光客の双方向流動、資源の相互補完等、広域観光発展の枠組み作りを進める構想が示されました。

熊本市からは、築城400年の2007年を目処に進めている熊本城の復元計画の他、西部山岳地帯の金峰山一帯を自然体験、環境学習、健康増進、そして、農業体験の場として整備する観光地作りなど、環境に配慮した観光開発について紹介され、官民一帯となってコンベンションの誘致と受入れ体制の強化に取り組んでいることについてのご報告がなされました。

マニラ市からは、16世紀半ばから19世紀初頭にかけて、フィリピン、メキシコ間の貿易船として活躍したガレオン船を東洋と西洋が流合した国際港湾都市としてのイメージを作り出す中心的な素材として位置付け様々なPRや船の復元等を進める計画について説明をいただきました。

宮崎市には、地元企業を中心にシーガイア等のリゾート施設が整備され、雇用の促進や地場産業の育成等、地域振興へ貢献をしているとのお話をお伺いしました。

また、本年7月には、九州沖縄サミットの外相会議の開催が予定されるなど、コンベンションの誘致に取組まれ、国際観光リゾート都市として、ハード、ソフト両面からの魅力ある観光地作りについてのご報告がありました。

長崎市では、16世紀後半、日本で他に先駆けて開港した、港町としての歴史を活かし、数多くの文化遺産を環境資源として認識し、保護・復元・活用する観光施策を展開されており、旧グラバー邸などの歴史的な建造物の保存や日蘭交流400周年を記念した。出島オランダ商館跡の復元などの取組みを紹介されました。

釜山広域市からは、世界的に有名な渡り鳥飛来地を中心に生態公園を整備し、自然と人間が調和して共存する観光事業プロジェクトについて報告をされました。また、市内を三つの圏域に分けて、滞在型海洋休養施設、国際旅客ターミナル、海上架橋等を建設する観光イベントの整備や、公共投資と共に国内民間資本や海外資本の投入により推進する計画が紹介されました。

上海市からは、都市の景観や歴史、文化、商業等を結合させた都会的特色のある観光商品の開発・体系化し、国際会議や展示会、博覧会の開催、快適で美しい都市環境の実現、専門的人材の育成等を推進する都市型観光発展戦略について紹介をされました。

そして、鹿児島市は、市街地の目の前に世界有数の活火山、桜島がそびえ、青く波静かな錦江湾が広がり、市内随所からは、豊富な温泉が湧き出る豊かな自然環境を活かした国際観光都市作りについて紹介し、海の環境保護をテーマにした、鹿児島水族館の建設、火山廻りヨットレースや桜島・錦江湾横断遠泳大会の開催等について報告して下さいました。

このように、多くの都市から、環境に配慮した都市作りのための事業やプロジェクトが紹介されました。各都市の発表を要約いたしますと、各々の都市が持つ自然環境や歴史・文化遺産等を資源として活用し地域の特性を活かした観光政策を進め、業種の枠を越えた連携によって新しい観光分野を切り開いていくことが必要であり、自然や歴史、文化町並み等の様々な要素を都市の環境を構成するものとして捕らえ、これらのバランスを保ちながら観光都市作りを進めるべきという認識が示されました。

この他、民間資本や海外資本の投入によって新たな観光資源を作り出すこと、コンベンションの誘致開催に務めること、観光産業の育成や観光の振興が都市作りの基本命題そのものであること、更に地域や国境の門を越えた連携を進めることといった視点からの発表が行われたところでございます。

これらの各都市からの発表後に自由討議を行いまして、各都市からの発表内容についての質問がなされたところでございます。更に、特に広域的連携の問題に関して、釜山広域市から、アジア・太平洋都市の観光産業活性化のために、アジア・太平洋都市サミットの傘下に会員各都市の市長を委員とするアジア・太平洋都市間観光振興機構(TPO)の創設についてのご提案がございました。

この提案について討議をした結果、このTPOの創設について出来るだけ早く実務者会議で協議をしていくことで意見の一致をみたところでございます。

第2-A分科の報告を終わります。ありがとうございます。

○ 座 長

鹿児島市の赤崎義則市長、ありがとうございました。

最後に2-B分科会です。テーマは、2-Aと同じで、大連市、福岡市、北九州市、ホノルル市、クアラルンプール市、大分市、ウルムチ市が参加しました。
では、山崎福岡市長に発表をお願いします。

□ 山崎広太郎 福岡市長

第2-B分科会では、観光産業の育成案ということで、今ご紹介がありました7都市から実際の事例について発表をいただきましたので、まず、まとめをさせていただきます。

大連市からは、第一に、観光産業の発展のためにも都市の持続的な発展を重視しており、基本的に最大というよりも質的に最良のものをという考えの基で、都市計画の調整による土地の最適利用や都市の特色を活かした都市建設を進めているということ、第二に、緑地開発や美化、広場の整理や廃棄ガスや消音対策等をしているということ、第三に、大連アシア祭り、大連国際ファッション祭り等の観光イベントや様々な観光プロジェクトを展開していること等が主に発表されました。

ホノルル市からは、まず、ワイキキの再活性化のために進められている魅力的なカラカウア通りの整備、観光客の安全の確保、税報償制度を活用した民間部門による商業ビルの改修・新築工事等、ホノルル市、州、民間セクターの様々な取組みについて紹介がございました。また、地域住民のために行われた施設整備が同時に観光客にとっても新たな魅力になるということ、映画、テレビや娯楽産業を通じた観光地としての宣伝、アジア・太平洋地域の中心である地理的条件を活かした、国際的なコンベンションや祭りの都市としての民族的・文化的イベントの展開についてのご紹介がございました。

北九州市からは、第一に、企業遊休地の活用によって建設された世界初の、宇宙をテーマとするテーマパーク「スペースワールド」や歴史的な建造物の活用による「門司港レトロ地区」など、社会ストックの友好活用による事例が紹介されました。第二に、環境産業を始めとする産業技術の集積という北九州市の特性を活かし、体験や学習の要素を持った産業観光の事例についての紹介がありました。第三に、来年開催されます、「ジャパンエキスポ北九州博覧祭2001」についてのご紹介がありました。大変に広域的な連携による観光客の誘致、観光ルートの設定等の取組みについて紹介がございまして、特に、環黄海エリアへの観光客の誘致に向けた取組みについてご提案がございました。

クアラルンプール市からは、マレーシアでは比較的最近になってから観光振興のための取組みが始まり、着実に観光客が増加していること、クアラルンプール市では、市が持つ特性や観光資源の再発見を行うと共に各市のコンベンションの開催、スポーツ大会の開催、多様な文化や遺跡を活かした文化観光という三つの分野の資源開発を推進しまして、国際的な観光地としてアピールしていくとの発表がございました。

大分市からは、第一に、多数の猿が生息する高崎山や日本有数の別大毎日マラソンが行われる別府湾といった、大分市が持っている自然を活かした観光の状況の説明がございました。第二に、自然と調和した観光開発の事例として、2002年に大分市で開催されるワールドカップ・サ

サッカー大会のスタジアムに接するスタジアムや美術館の整備を行う計画の発表がなされました。第三には、大分県内の各地で開催されている一村一品運動による産物を活かしたグルメ料理による観光の振興について発表がございました。

ウルムチ市からは、まず、国の政策として積極的に観光の振興を行っているということ、ゴールデンルートを策定すると共にゴビ奇観、氷峰とオアシスが相映える水域景観、悠久のシルクロード文化を観光産業の三大特色としているということ、ウルムチ市と周辺地域が連携してエリア内の観光開発を行っていること等の紹介がございました。

また、観光開発の重点として、観光道路の建設、観光施設整備、ショッピングセンター機能の強化、海外からの投資の誘致、観光ポイントや観光商品の開発、観光宣伝の強化等により、戦略的に観光産業の振興を図ってきたいという発表がございました。

福岡市では、遺跡、祭り、伝統芸能など、歴史と伝統文化を活かした観光振興を図る事の他、魅力ある都市型施設の整備や国際的なコンベンション、スポーツ大会等の誘致、特に、アジア・太平洋との交流を重視したアジア・マンスやアジア美術館、アジア・太平洋子供会議等の事業の推進を図っていること、交流の結節点としての福岡の役割を果たすため、空港や港の整備を図っていく計画であることが紹介されました。更に九州の諸都市が連携し一体となった観光振興が重要であること、現在取組んでいる釜山広域市との共同による観光説明会や観光パンフレットの作成等の観光振興事業の成果を踏まえて参加地域の拡大を図る考えであることが発表されました。

事例発表は、以上の通りであります。

7つの都市の発表をまとめてみますと、一つは、観光の振興は今後の都市の発展において非常に重要な課題であるという共通認識がございませう。二つは、各都市が各々の自然、歴史、文化、産業といった都市の個性を活かしながら工夫を重ねて観光資源の開発を行っている現状であるということです。三つ目は、観光の振興に当たっては、魅力的な街作りと合わせて国際的なコンベンション、スポーツ大会、お祭り等、様々なイベントが各々展開されているということです。四つ目は、各都市の市域内だけでなく、広域的なエリアの中での観光の振興を考える必要があり、その努力が推進されています。五つ目は、自然環境に充分配慮しながら、環境を守りながら観光開発を推進する必要があるということに共通の認識を持っています。以上のような事に集約出来ると思います。

そして、更に、今後の課題としては、海外の都市との連携によって観光ルートの設定、観光情報の共同発信など、観光客の誘致に向けた取組みを行ってはどうかとの提案がございました。

次に自由討議を行いました。その中で主な意見を幾つかご紹介させていただきます。一つは、観光の先進都市であるホノルルと、また、観光事業をスタートさせたばかりの都市の状況は異なる

る訳でございますが、スタートしたばかりの都市にとって、先進都市のモデルは大変参考になるという意見がございました。ホスピタリティや様々な観光資源の開発のためには、人材の育成や情報交換が大切であるということ、このため、アジア・太平洋都市サミットにおいてインターネットのウェブサイトの開設を提案するという意見がございました。次に、各都市は、行政の枠組みを越えて連携し、広域的な取組みを進めるべきであるとの意見が大勢でございました。

また、行政だけでなく、各都市の民間の観光業界など民間部門とのコミュニケーションを図っていくべきとの意見がございました。

以上で第2-B分科会の取りまとめをお話致しました。

□ 座長

各分科会は、具体的かつ堅実な意見交流と活発な討論をして下さいました。福岡市の山崎市長、ありがとうございます。

これで、分科会の報告を終えさせていただきます。それでは、これを基に全体会議の主題である「新しい千年のアジア・太平洋都市経済発展」に関する討議を始めます。実務者会議を経た「都市間ネットワークの構築強化」についても積極的に討議して下さい。ご提案やご意見ございませんか。

□ メネンデズ3世 ホノルル経済開発局長

本日の発表と討論に対するコメントです。会議以降のフォローアップに対し、誠実な姿勢が要求されます。開発局と途上国都市間の知識共有に関する方法の模索も切実な問題です。私は、専門知識を持った先進国には途上国と情報を共有する責任があると思います。この都市サミットでお互い知識を共有し協力する積極的な方法を模索するべきだと思います。まず、国家間の障壁をなくすべきです。皆様の意見や具体的な計画を述べて下さい。

□ 座長

具体的な情報交流の方法については、次回の実務者協議で取扱われると思います。福岡市長と事務局が検討して下さいようお願い申し上げます。他に何かございませんか。

□ クリスティン・フレチャー オークランド市長

サイバー市役所に関するアイデアをイポー市が発表して下さいましたが、回りの会議でこの内容に関する具体的な事例を発表して頂きたいと思います。

私は、大変興味を持っております。一部の国家では、資源に限界があるにも関わらず他の都市と同じような施設を期待したりします。私たちは、都市間の特性に合わせてニッチマーケットを探す戦略的な観光マーケティングをやるべきですが、何か方法がありますでしょうか。インフラを作るのも私たちの責任です。

○ 座長

釜山市は、既にインターネットを活用しています。先進国と途上国が観光産業に投資し協力する方法もあります。イポー市の市長、サイバー市役所について話して下されませんか。

○ ダト・タラット・フセイン イポー市長

イポー市は、サイバー市役所サービスを導入し、行政業務を行っています。インターネット、音声応答サービスを通じて市民と市役所間の交流等3段階 開発を進行中で、次回のシアトル会議で試演する予定です。

○ 座長

ありがとうございます。鹿児島市長、どうぞ。

○ 赤崎義則 鹿児島市長

第2-A分科会の座長をしました鹿児島市長です。今、オークランド市長さんの方から、ご質問のありました内容については、直接報告もありませんでしたし、また、討議も致しませんでした。各都市から発表された観光振興への取組みとして共通的に発表された事は、これから環境を壊すような、自然を壊すような観光開発というものは進めたくないということでございました。環境を活かし、また、自然を大事にした観光というのが、各都市の基本的なスタンスだと思います。そして、各々の都市が持つ個性或は歴史、文化というものを最も大きな観光資源として活用していく事が各市の観光政策の基本でありました。更に、もう一つ、このアジア・太平洋都市サミットが求めているように、少なくとも、アジア、日本では九州全体がお互いに協調し合う広域的な観光の振興というものが今後の大事な課題ではないかという意見が各都市から出されました。

○ 座長

赤崎義則市長、ありがとうございました。

オークランド市長のお話の中で、サイバー市役所の問題は、サイバーの問題は、選択ではなく必須的な問題です。釜山の場合、市民からの問い合わせ等もインターネットで対応しています。

□ ティム・クイン ブリスベン副市長

ありがとうございます。大変いい提案をして下さいました。

都市間協力システムの構築、都市間の情報格差をなくし、人と物の資源の発展に対する実務者グループレベルでの実質的な検討が要求されるという提案でしたが、大変いい提案でした。

また、ブリスベンの都市サミットがごございます。もう一つの都市サミットと本都市サミットは、別途に開催されていますが目的は大変似ています。二つの都市サミットをリンクさせたいと思います。ブリスベンの都市サミットとアジア・太平洋都市サミットを公式的に連携させた方がより生産的だと思います。ただ、ブリスベンの都市サミットには、民間部門からも多く参加しています。この提案に皆様が支持して下さいます。また、来年の会議に先立ち、これに対する研究が必要だと思います。

□ 座長

ブリスベン市長、ありがとうございます。

釜山市の提案に対し、実務的な方法を模索するなど次回の会議に反映させようというご提案でした。他にご意見ございませんか。賛成して下さいれば、実務グループで検討し、報告書にも盛り込みたいと思います。

二つ目の提案は、大変重要なことでしたが、福岡主催の本都市サミットとブリスベン主催の都市サミットがごございます。類似した点もかなりございますが、違った点もあります。民間部門の活動が活発だというのがブリスベン都市サミットの特徴です。これに関する意見を聞かせて下さい。

□ メネンデズ3世 ホノルル経済開発局長

ブリスベン市長の意見に同意します。世界は、相互依存の時代に向かっていますので、私たちの下した結論は大変重要なものです。政府も民間部門も共に協力し健全な討議を重ねていくべきです。ですから、今日は政府間で協議が行われたとしたら、明日は民間部門で協議をするといった形で会議を進めていきたいと思っています。

□ 座長

ありがとうございます。今まで二つの都市サミットは、類似した形で発展してきました。私た

ちがあることを決定するとしたら、その意思決定の過程を考えてみなければなりません。もう一つの問題は、手続き上の問題です。お互いの意見を聞いてみなければなりません。議題を決定するには、どのような手続きが必要なのか考えるべきです。その後、実務会議でこの問題を検討し、会員都市の意見をまとめてから議題を決める方法があります。二番目の方法は、プリズペンの提案を実務グループに任せる方法です。意見をどうぞ。

○ 山崎広太郎 福岡市長

私は、市長になってまだ1年半で、これが最初の会議でございます。だから実体を良く飲み込めてない所がございます。それと、シアトルでもう一つの都市サミットが開催されるということも今日初めて知りましたので、どういう内容であるのか、目的等も照らしてもう少し議論を重ねるべきだと思います。

必ずしも、別々であるべきだという考えは持っておりません。

○ 座長

では、実務者会議を通じて充分情報を共有する時間を設けまして、次回論議することに致します。

○ フレチャー オークランド市長

ありがとうございます。この問題を分科会で充分討論しました。まずは、二つの都市サミットが戦略的に協力したり合併する問題とこのサミットに民間部門も参加させる問題でした。宣言文の2番の項目でこの問題を取扱っていると思いますが新しく交流と協力が可能な分野を積極的に模索する必要があります。貿易と投資という面でも民間の企業家の意見を聞くべきです。

○ 座長

民間部門の参加につきましては、宣言文の内容と一致します。他に意見ございませんか。本都市サミットとプリズペンの都市サミットの目的は大変似ていますが、この問題については、慎重に検討すべきです。この内容について議論した分科会もございますし、議論していない分科会もございます。

実務会議で検討する必要がある、時間を要する問題です。この問題につきましては、詳細な検討が必要だとまとめてよろしいでしょうか。

○ 王守初 広州副市長

都市が会員となり、市長が委員になる観光振興機構、つまりTPOの提案がありました。それは大変いい提案だと思います。TPOを通じて交流と発展が一層促進されると思います。皆様がこの提案に同意して下さることを期待します。

一つの分科会ではこれについて討議しました。他の分科会でも同意して下さるようお願いいたします。

○ 座長

鹿児島市長、補足の説明をされますか。

○ 赤崎義則 鹿児島市長

分科会のまとめは、今、広州市長のおっしゃった通りでございますが、2-A分科会以外の方がこの提案の内容についてご存じでないので、むしろ釜山広域市長から提案者としてこの会の内容について説明されるのが一番いいかと思います。如何でしょうか。

○ 座長

私が提案しましたので説明します。アジア・太平洋都市サミットは、全ての都市を対象にする会議ではございません。23の会員都市が集まって具体的な協力を模索する会議です。例えば、上海の観光専門家がソウルに来て釜山の観光専門家と会って協議したとします。そして、両都市間の協力について議論します。こんなふうに進められています。私たちは、広州市から多くの支援を得ています。

アジア・太平洋都市サミットは、都市間の具体的な協力方法を論議する場です。会員都市の観光産業の振興のための具体的な協力の枠組みを作れるよう、観光プロモーション機構(TPO)を組織したいと思います。この提案が受入れられれば、実務会議を通じて具体化する作業が必要だと思います。アジア・太平洋都市サミットの傘下にTPOを設置するという事は、共同宣言文を通じてより具体的に論議されるでしょう。

○ クリスティン・フレチャー オークランド市長

この提案の中で一つ気になることがございます。

「環境にやさしい」という事に関しましては、都市によって各々解釈が違うと思いますが、これに対する解釈を統一させる必要があります。環境にやさしい観光と言ってもそれぞれ解釈が違いかも知れません。民間部門にとっては「環境にやさしい観光」は、チャンスというより一

つの挑戦になると考えられます。しかし、私達は、世界経済を考慮し新しい基準を設けるべきです。観光に関する観光政策も実務レベルで検討し新しい立場、規定、基準を作り、これを利用して観光開発をするべきです。深く詳細な検討が必要です。

□ 座長

ありがとうございます。

まず、午前の分科会での討議をまとめ、その後、共同宣言文について論議したいです。質問やご意見ございませんか。

□ フセイン イポー市長

私たちはインターネットを既に使っていますのでそれについて話してみたいと思います。電子商取引を許容するシステムですので、本会議の参加都市ともそのような問題について話し合いたいです。

□ 座長

イポー市長がサイバー市役所について話して下さいました。後で具体的な説明をお願いします。釜山は、インターネットで市民からのお問い合わせ等を受付けています。他に意見ございませんか。では、休憩に入りたいと思います。

***** 休 憩 *****

□ 座長

会議を続開します。午前の分科会の結果を取りまとめてみました。ご報告致します。22都市が三つの分科会に分けて論議した結果を見ますと、

1分科では都市間の交流と貿易の振興という主題でブリスベン、ホーチミン、イポー、ジャカルタ、釜山、オークランド、佐賀の7都市が参加し、グローバル化による国家の役割の減少と都市の役割の増大に対する共通認識の下に、「都市間の相互交流と貿易の振興」方法等を論議し、本アジア・太平洋サミットとブリスベンの都市サミットの相互協力等に関する問題を模索しました。また、コミュニケーションの問題と情報格差をなくすためのシステム構築等についても論議しました。

2-A分科では「観光産業の育成案」という主題でバンコク、広州、鹿児島、熊本、マニラ、宮崎、長崎、釜山、上海と オブザーバーとしてウラジオストック、計10の都市が参加し、観光産業が21世紀の基幹産業であるということに対し認識を共にし、都市発展の一番重要な政策課題として自然、文化、歴史等を観光資源として活かす問題について話しながら、個性に満ちた開発が要求されるという点で意見が一致しました。また、釜山が提案したアジア・太平洋都市観光振興機構(TPO)に同意しました。

2-B分科では 2-A分科と同じ主題で大連、福岡、ホノルル、北九州、クアラルンプール、ウルムチ、大分市の7都市が参加しました。ここでは、観光振興は、都市発展の主な課題で、各都市は各々個性を生かして観光資源を開発し、魅力的な都市にしていくという点で意見が一致しました。特に、コンベンション等のイベント誘致と広域開発推進という点で認識を共にしました。

自由討議では、アジア・太平洋都市サミットのインターネットを通じた情報交流が提案され、二つの都市サミット間の協力に関しては、十分な時間を持って実務会議で論議することになりました。国際交流を通じた相互協力の増進に同意し、具体的な実践方法を講じることにしました。また、次回の会議では、イポー市がサイバー市役所について具体的な発表をし、ウェブサイトの構築とこれによる情報の交換も次期会議に上程することになりました。

アジア・太平洋都市サミットの傘下にTPOを創設することに関する論議と肯定的な意見に感謝申し上げます。



共同宣言文採択

次は、共同宣言文についてです。

まず、司会の方から各都市が準備した共同宣言文の草案を朗読して下さい。都市代表の皆様は、テーブルの上にある共同宣言文の案を参考にして下さい。

～～ 司 会 ～～～

私が朗読いたします。

－ 第4回アジア・太平洋都市サミット 釜山宣言 －

世界経済の中心地域に成長しているアジア・太平洋地域の共同繁栄を目標とした第4回アジア・太平洋都市サミットが新しい千年の幕を開ける2000年5月13日及び14日に韓国第一の港湾都市、釜山で開催されました。

「新しい千年のアジア・太平洋都市経済発展」という主題の下で開催された釜山会議では、東アジア地域の経済問題に関して多様な論議が行われ、特にこの地域都市間のネットワークの強化が経済協力の活性化及び観光産業振興において必要だということで認識を共にしました。

アジア・太平洋都市サミットに参加した11ヶ国22都市の代表は、アジア・太平洋地域の共同繁栄に対する多様な提案と意見交換を通じて合意に至り、下記の五つの事柄を釜山宣言として採択する。

1. 新しい千年の時代を迎え、その間形成されてきた各参加都市間のネットワークを十分に活用し、多方面に渡る交流を拡大させながら都市間の協力関係を一層深める。
2. 経済協力活性化のため、実質的な交流協力案を積極的に発掘して推進させ、各都市の民間経済人の意見を取入れ投資の活性化と貿易の振興を図る。
3. 参加各都市は、域内の観光産業育成及び環境にやさしい観光政策推進のためお互い協力する。この目的を達成させるため、アジア・太平洋都市サミット傘下のアジア・太平洋観光振興機構(TPO)創設を積極的に検討する。
4. アジア・太平洋都市サミットが一層效率的で実質的な成果のある会議となるよう実務者レベルでの会議を継続して推進する。
5. 第5回アジア・太平洋都市サミットは、2002年に日本福岡市で開催し、第4回実務者会議は2001年に釜山広域市で開催することにする。

2000年 5月 14日 大韓民国釜山広域市にて

○ 座 長

次は、共同宣言文の採択です。

共同宣言文の内容については、既に各都市と事前協議を経まして、釜山共同宣言文と称します。意見のある方はどうぞ。各都市が合意し、これに対する異議がなければこの釜山共同宣言文を採択します。オークランド代表、どうぞ。

○ クリスティン・フレチャー オークランド市長

この共同宣言文の草案を作成して下さいの皆様へ感謝申し上げます。オークランド市もこの宣言文を支持したいと思いますけれども、残念ですが、一つだけ指摘したいと思います。次回の福岡会議の前に考慮すべき事柄ではありますが、オークランドのような小さい都市がこのような国際会議に参加するのが経済的に段々難しくなっています。会議の内容が一層具体的でないと、非難される恐れがあります。

実際、この宣言文を見ると、ここにお集まりいただいた都市が難しい問題にも関わらず合意に至りましたので、その点改めてお慶び申し上げます。

ところで、要請したいことは、私たちが市議会から継続して支援を頂くためには、責任感をもって今後の課題を検討すべきということです。オークランド市議会を代表して発言しますが、このような国際会議への参加を正当化させ、市民を納得させるには、より具体的な行動をとる必要があるということです。

○ 座 長

はい、オークランド市長、ありがとうございます。

次回の会議の議題につきましては、実務会議を通じて充分検討することにいたしました。多くの意見が提示されました。本会議が3回を経て4回に至りました。今回は、サイバー、観光、経済交流、インターネットを通じた電子商取引の構築に至るまで多くの部門に対する具体的な意見が出ました。

次回の会議では、一層実質的な意見を通じて各会員都市に参考になるように会議が進められることを期待しながらこれらの事柄が議事録にも盛り込まれるように致します。

そして、共同宣言文に関する皆様の同意を拍手で採択して下さいをお願いします。ありがとうございます。皆様の積極的な声援によりまして、第4回アジア・太平洋都市サミットの共同宣言文である釜山宣言文が採択されたことを公表いたします。

これを持ちまして共同宣言文採択の手続きを終えさせていただきます。ただ今より、閉会式に移りたいと思います。

(6) 閉会式

□ 座長

ただ今より、閉会式を始めます。第4回実務者会議が釜山で開催されます。本日参加された都市代表の皆様は、実務者会議で、より具体的で現実的な提案をして下さり、積極的に参加して下さいようお願い申し上げます。本日討議された会議結果は、実務者の意見交換を通じて、細部的な実践方法など一層深い論議が行われる予定です。本日、第5回アジア・太平洋都市サミットの開催都市として決定された次期開催都市の福岡市長より閉会のご挨拶を頂戴したいと思います。

□ 山崎広太郎 福岡市長

第4回アジア・太平洋都市サミットが終わろうとしています。釜山市の安相英市長をはじめ、関係者の皆様、会議の準備のためご尽力して下さい、ありがとうございます。

第5回アジア・太平洋都市サミットの開催都市となったこと、大変光栄に存じます。市長としては、初めてこの都市サミットに参加致しました。私自身もアジア・太平洋都市間の連携、ネットワークの構築が大変重要だと思っております。本来は、次回の会議を他の都市で開催すべきですが、まだこの都市サミット自体が準備段階にあるという点を考慮しまして、次の会議は喜んで福岡市で開催することに致しました。

そして、いい会議を開催しようと期待しております。私は、今年の4月にヨーロッパで開催されたOECD会議に日本都市を代表して参加しましたが、地域間交流について論議しました。そのような会議へ参加して感じたことは、ヨーロッパの都市間会議より、アジア・太平洋都市サミットの皆様の方がより熱心に会議に参加され、多大な成果を上げているということです。今後とも、多大な成果を期待する次第です。

皆様と共に、都市間の連携やネットワーク作りなど、あらゆる面で一つになって事を推進させようと思っております。2002年の都市サミットの前に、実務者会議開催されますが、ここで提案された様々な問題を公式的であれ非公式であれ充分論議して下さいようお願い申し上げます。そして、2002年の福岡サミットを今後に向けて飛躍する会議にしていきたいと思っております。2002年に福岡で皆様をお待ち致します。

□ 座長

私たちは、アジア・太平洋都市サミットの会員都市間の強い連帯と協力を確認した全体会議を成功裏に終えました。

各々の都市の立場は違いますが、大韓民国の釜山市は、中央政府と都市間での、また、首都圏と地方都市間の問題が深刻だと思っております。一地域に偏重された発展と地方自治体のバランスの取れた発展を阻害する中央政府のあらゆる要素、つまり、予算、組織、人事などの要素の緩和を通じた地方政府発展の保障問題は、共通の問題です。これを打破するためには、中央政府間の努力ではない、各都市間の緊密な協力が重要です。

アジア・太平洋都市サミットを通じて、会員都市がより豊かな市民生活を保障する発展された会議として継続される事を期待します。最後に、福岡市の 2002年アジア・太平洋都市サミット開催を心よりお祝い申し上げます。皆様、2002年、福岡でまたお会いしましょう。ありがとうございました。

～～ 司 会 ～～～

これをもちまして、全体会議の日程を全て終えさせていただきます。

第4回アジア・太平洋都市サミット会議開催へのご協力ありがとうございました。